

古事記 参

2016年12月29日

原文： 岩波文庫 古事記

現代語訳： 岸本陸一 （素人が古事記を普通に読む試み。多分日本人なら誰でも読めるはず。高校で漢文習ったんだから大丈夫なはず。）

伊邪那岐命と伊邪那美命

於是天神諸命以、詔伊邪那岐命、伊邪那美命二柱神、修理固成是多陀用幣流之國、賜天沼矛而、言依賜也。故、二柱神、立（訓立云多多志）天浮橋而、指下其沼矛以畫者、鹽許々衰々呂々邇（此七字以音）畫鳴（訓鳴云那志）而、引上時、自其矛末垂落之鹽累積、成嶋。是淤能碁呂嶋。（自淤以下四字以音）

ここに天の諸々の神がイザナキ（岩波文庫ではイザナギではなくイザナキとルビが振ってあります）とイザナミに対し、天の沼矛を渡し、この漂える国を固めるよう委任した。そこで、イザナキとイザナミは天空に浮いた橋から天の沼矛を下して海水をかき混ぜて引き上げると、その先から滴る塩が積もって島になった。これがオノココロ島である。

於其嶋天降坐而、見立天之御柱、見立八尋殿。於是、問其妹伊邪那美命曰汝身者如何成。答曰吾身者、成成不成合處一處在。爾伊邪那岐命詔我身者、成成而成餘處一處在。故以此吾身成餘處、刺塞汝身不成合處而、以爲生成國土、生奈何。（訓生、云字牟。下效此。）伊邪那美命答曰然善。爾伊邪那岐命詔然者、吾與汝行廻逢是天之御柱而、爲美斗能麻具波比。（此七字以音）

その島に天降りして、立派な天の御柱を立て、大きな家を建てた。ここでイザナギがイザナミに聞いた。あなたの体の特徴は？ イザナミは我が身には女陰がある、と答えた。これに対しイザナギは、私には男根がある、と言った。私の男根を用いてあなたの女陰をさし塞いで国を産もうと思うのだが、どうかなあ？ イザナミは、いいわよ、と答えた。イザナギは言った、私とあなたは天の御柱の向こう側でミトノマグハヒをしましょう。

訳者注：まだ古事記は始まったばかりですが、早くも眠くなりそうなので、エロねたを入れて目を覚まさせようという作者の意図が感じられます。この後も、眠くなるころに何度もエロ（異性、同性）とグロ（惨殺、裏切り、汚物）の話が登場します。

如此之期、乃詔、汝者自右廻逢、我者自左廻逢。約竟廻時、伊邪那美命、先言阿那邇夜志愛衰登古衰。（此十字以音、下效此。）後伊邪那岐命、言阿那邇夜志愛衰登賣衰、各言竟之後、告其妹曰、女人先言、不良。雖然久美度邇（此四字以音）興而生子、水蛭子。此子者入葦船而流去。次生淡嶋、是亦不入子之例。

あなたは柱の右から廻って、私は左から廻って、柱の向こうで逢いましょう、とイザナギが言った。柱を回る時、イザナミが、「あなにやし、えをとこを」（あらまあ、ええ男やこと）と言った。イザナミも、「あなにやし、えをとめを」（あれまあ、ええ女やなあ）と言った。お互いに言った後で、イザナギが言ったが、女から先に言うのは良くない。最初に生まれた子は蛭子（ひるのように骨なしの意味か？）と岩波文庫には書いてありますが、流産または死産のことだと思います。日本を作ったイザナミでも最初は流産したんだから、一般人が流産するのはしかたない。イザナミはその後たくさん島や神を産んで大

成功したんだから、あんたらも気持ちを切り替えて頑張りなさい、と古事記が流産した女性を勇気づけているように読めます。この子は葦船に入れて流した。次に淡島（所在不明）を生んだ。これも失敗で、子供の数には数えない。

訳者注：オノコロ島とか淡島とか、所在の特定できない地名が多く現れます。これは、古事記を身近に感じてもらうためのテクニックだと思います。うちの島がオノコロ島だ、いやうちの島だ、と何十何百という人が名乗りをあげれば、それは全部正解です。古事記に自分の住む島が登場するわけですから、皆が天皇家にゆかりがあるのだ、と思う効果があります。

於是二柱神議云、今吾所生之子不良。猶宜白天神之御所。即共參上、請天神之命、爾天神之命以、布斗麻邇爾（此五字以音）ト相而詔之、因女先言而不良、亦還降改言。故爾反降、更往廻其天之御柱如先。於是伊邪那岐命、先言阿那邇夜志愛袁登賣袁。後妹伊邪那美命言阿那邇夜志愛袁登古袁。如此言竟而御合生子、淡道之穗之狹別嶋。（訓別、云和氣。下效此。）次生伊豫之二名嶋。此嶋者、身一而有面四。每面有名。故、伊豫國謂愛比賣（此三字以音、下效此也）、讚岐國謂飯依比古、粟國謂大宜都比賣（此四字以音）、土左國謂建依別。

ここで二神は相談して言った。今私が産んだ子はよくなかった。天上に帰って天つ神に報告しよう。すぐに一緒に天上に帰り、天つ神はフトマニ（鹿の骨を焼いて占い）をした後、次のように言った。「女が先に言うのは良くない。地上に帰ってもう一度言い直せ」 オノコロ島に帰った二神は先ほどと同じように天の御柱を廻った。ここで、イザナキが先に「ええ女やなあ」と言い、その後でイザナミが「あらまあ、いい男じゃない」と言った。その後で淡路島、四国を生むのに成功。四国には四つの面があり、面毎に名前がある。伊予の国を愛媛と言い、讚岐の国をイヒヨリヒコと言い、阿波の国をオホゲツヒメと言い、土佐の国をタケヨリワケと言う。

訳者注：四国は伊予が女、讚岐が男、阿波が女、土佐が男。独神の時代から夫婦の時代に入ったわけですね。

次生隱伎之三子嶋。亦名天之忍許呂別。（許呂二字以音）。次生筑紫嶋。此嶋亦、身一而有面四、每面有名、故、筑紫國謂白日別、豊國謂豊日別、肥國謂建日向日豊久士比泥別（自久至泥以音）、熊曾國謂建日別。（曾字以音）。次生伊伎嶋。亦名謂天比登都柱。（自比至都以音、訓天如天）。次生津嶋。亦名謂天之狹手依比賣。次生佐度嶋。次生大倭豊秋津嶋、亦名謂天御虚空豊秋津根別。故、因此八嶋先所生、謂大八嶋國。

次に隠岐のミツゴノ島を生んだ。またの名はアメノオシコロワケ。次に筑紫島を生んだ。この島もまた四つの面があり、面毎に名がある。筑紫国はシラヒワケと言い、豊国（豊前・豊後）はトヨヒワケと言い、肥国はタケヒムカヒトヨクジヒネワケと言い、熊曾国はタケヒワケと言う。次に壱岐、またの名はアメヒトツバシラ。次に対馬、またの名はアメノサデヨリヒメ。次に佐渡島、次にオホヤマトアキヅ島（近畿地方）、またの名をアマツミソラトヨアキヅネワケと言う。この八島を先に生んだので、日本のことをオオヤシマグニと言う。

漢字を眺めていると、イザナキとイザナミが回った柱は天比登都柱（アメヒトツバシラ、すなわち壱岐のように思えます。壱岐の左右を回って朝鮮半島から神が来日したのだよ、と言いたいのかもかもしれません）

訳者注： 多分これは天皇家の親戚筋の地元に気を使ったものだと思います。ここに出しておけば、後

で文句を言われることはなさそうです。

然後、還坐之時、生吉備兒嶋。亦名謂建日方別。次生小豆嶋、亦名謂大野手上比賣。次生大嶋。亦名謂大多麻上流別。(自多至流以音)。次生女嶋。亦名謂天一根。(訓天如天)。次生知訶嶋。亦名謂天之忍男。次生兩兒嶋、亦名謂天兩屋。(自吉備兒嶋至天兩屋嶋、并六嶋。)

その後、岡山県の児島半島、またの名をタケヒカタワケ。次に小豆島、またの名はオホノデヒメ。次に山口県柳井の東にある大島、またの名はオホタマルワケ。次に大分県国東半島の東北にある姫島、またの名はアメヒトツネ。次に五島列島、アメノオシヲ。次に長崎県の男女群島、アメフタヤ。吉備兒嶋から天兩屋嶋まであわせて六島。

訳者注： 嶋は船舶が寄港できるところ、と言う意味だと思います。古代には陸路が存在しないわけですから、陸続きかどうかを考える意味はありません。九州の島がアメノで始まるのが気になります。

既生國竟、更生神。故、生神名、大事忍男神、次生石土毘古神(訓石云伊波、亦毘古二字以音)。下效此也、次生石巢比賣神、次生大戸日別神、次生天之吹上男神、次生大屋毘古神、次生風木津別之忍男神(訓風云加邪、訓木以音)。次生海神、名大綿津見神、次生水戸神、名速秋津日子神、次妹速秋津比賣神。(自大事忍男神至秋津比賣神、并十神。)

此速秋津日子・速秋津比賣二神、因河海、持別而生神名、沫那藝神(那藝二字以音、下效此)、次沫那美神(那美二字以音、下效此)、次頼那藝神、次頼那美神、次天之水分神(訓分云久麻理、下效此)、次國之水分神、次天之久比奢母智神(自久以下五字以音、下效此)、次國之久比奢母智神。(自沫那藝神至國之久比奢母智神、并八神)。

次生風神・名志那都比古神(此神名以音)、次生木神・名久久能智神(此神名以音)、次生山神・名大山上津見神、次生野神・名鹿屋野比賣神、亦名謂野椎神。(自志那都比古神至野椎、并四神。)

此大山津見神・野椎神二神、因山野、持別而生神名、天之狹土神(訓土云豆知、下效此)、次國之狹土神、次天之狹霧神、次國之狹霧神、次天之閻戸神、次國之閻戸神、次大戸惑子神(訓惑云麻刀比、下效此)、次大戸惑女神。(自天之狹土神至大戸惑女神、并八神也。)

次生神名、鳥之石楠船神、亦名謂天鳥船。次生大宜都比賣神。此神名以音。次生火之夜藝速男神(夜藝二字以音)、亦名謂火之炫毘古神、亦名謂火之迦具土神。(迦具二字以音)。因生此子、美蕃登(此三字以音)見炙而病臥在。多具理邇(此四字以音)生神名、金山毘古神(訓金云迦那、下效此)、次金山毘賣神。次於尿成神名、波邇夜須毘古神(此神名以音)、次波邇夜須毘賣神。(此神名亦以音)。次於尿成神名、彌都波能賣神、次和久産巢日神、此神之子、謂豐宇氣毘賣神。(自宇以下四字以音)。故、伊邪那美神者、因生火神、遂神避坐也。(自天鳥船至豐宇氣毘賣神、并八神。)

凡伊邪那岐、伊邪那美二神、共所生嶋壹拾肆嶋、神參拾伍神。(是伊邪那美神、未神避以前所生。唯意能碁呂嶋者、非所生。亦姪子與淡嶋、不入子之例也。)

すでに国を生み終えて、次に神を生んだ。たくさん神様の名前が登場しますが、省略します。個別に神にそれほど意味はなさそうです。ただし、神社で神主さんと古事記論議をするときに神の名前を知らないとバカにされかねないので、暇なときに覚えましょう。

さて、そろそろ生徒が居眠りを始めたので、目覚まし用のエロ・グロネタが登場します。

イザナミは次に火之夜藝速男神(ヒノヤギハヤヲ)を生んだ。別名ヒノカガヒビコ。別名ヒノカグツチ。この子を産んだ時、女陰を火傷して寝込んだ。嘔吐物から生まれたのがカナヤマビコ、糞から生まれたのがハニヤスピコ、尿から生まれたのがミツハノヒメ、次にワクムスヒメ。この神の子がトヨウケビメ。イザナミは火の神を生んだために死んだ。イザナギとイザナミが共同で生んだのは合計14島と35神。